

『令和7年度課題解決応援講座』講演会のまとめ

1. 開催の目的

南区地域振興課の企画により、多文化共生の専門家・松本義弘講師を招き、町内会役員が地域の現状を共有し、課題解決に向けた視点を学ぶために2回の講演会が開催された。本講座は、外国人住民への理解にとどまらず、地域全体のつながりを再確認し、今後の地域づくりに活かすことを目的としている。

2. 講演会で学んだ主要ポイント

● 多文化共生は「外国人支援」ではなく「地域づくり」

外国人住民を特別扱いするのではなく、地域の一員として共に暮らすための関係づくりが重要であることを学んだ。

● “見える化”の重要性

外国人住民の良い点・課題点を整理することで、地域に存在する“見えない壁”が浮き彫りになり、必要な支援や関わり方が共有された。

● 日常のつながりが多文化共生の基盤

制度や仕組み以上に、日常の中での自然な交流（あいさつ、声かけ、子どもを通じた関係）が地域の多文化共生を支えていることが確認された。

3. 意見交換で見た寿東部地域の特徴

● 外国人住民が多いだけではない

寿東部地域は、外国につながる子どもたちが多く在籍する南吉田小学校を中心に、自然な多文化共生が日常的に起きている地域である。

● 子どもたちが“文化の架け橋”になっている

- 日本語が得意な子ども
- 家庭で別の言語を使う子ども
- 異文化を自然に受け入れる子ども

こうした子どもたちが、地域の多文化共生を支える重要な存在となっている。

● 南吉田小学校の存在の大きさ

南吉田小学校は、外国籍・外国ルーツの児童が多く、多文化理解の中心的役割を果たしている。学校を通じて保護者や地域との接点が生まれ、地域全体のつながりを強める基盤となっている。

4. 寿東部地域の強み

今回の意見交換により、寿東部地域は「課題の多い地域」ではなく、むしろ多文化共生を自然に実践している“先進地域”であることが明確になった。

- 子どもたちの存在
- 南吉田小学校の教育力
- 町内会の理解と協力
- 外国人住民の地域参加

これらが重なり、地域のつながりを強くする土壌がすでに形成されている。

5. 総括メッセージ

今回の2回にわたる講演会と意見交換を通じて、次の点が明確になった。

「多文化共生とは、外国人を理解すること以上に、地域の人と人のつながりを育てることである」

外国籍の子どもたちが多く通う南吉田小学校は、まさにそのつながりの中心にある。子どもたちが文化を越えて自然に関わり合う姿は、地域の未来そのものである。

寿東部地域は、多文化共生を“特別な取り組み”としてではなく、日常の中で自然に実践している地域である。今回の学びを、今後の町内会活動や地域づくりに活かし、より良い地域の姿を目指していきたい。